



豊かな自然環境を大切に 安全とおいしさを求めて

# 庄内協同ファームだより

2024年 No.195

農事組合法人 庄内協同ファーム  
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338  
TEL.0235-78-2120 FAX.0235-78-2140  
<http://www.shonaifarm.com>



みんな違って  
みんないい!!



対話しようよ!!  
百姓国は可能性に  
満ちている!!

つらつらと

志藤正一



庄内協同ファームHP内「つらつらと」にて不定期連載が始まりました。今回は、自然農業に長年取り組んできた組合員・志藤正一さんのコラムとなります。長年研鑽されてきた技術や伝えたい思いなどが詳しく紹介されていますので是非ご覧いただきたいです。その中から一部ご紹介いたします。

## 「芽吹き季節に思いを馳せながら」

「冬来りなば春遠からじ」就農して間もない頃、庄内の農村指導者から教えていただいた詩である。

確かに雪国の冬は厳しい。今でも雪の多い年には除雪に苦労する。しかし、この詩を思い出すとき、雪国の農家や人々がただ冬の厳しさにじっと耐えてきただけではないような気がする。

子供の頃、一年で最も寒い大寒の季節は、どこかの農家でも秋口から作り始めた堆肥を馬そりや牛そりで田んぼに運ぶのが仕事だった。小学校からの帰り道、我が家の馬そりを見つけると、雪の中を走って追いつき、懐かしい堆肥の匂いがする馬そりに乗せてもらったものだ。

農業を始めたある時、父親に聞いたことがある。雪の季節は長いの、どうして寒さの一番厳しい大変な時期に堆肥を運搬したのだったかと。父親の答えは「前の日に田サ付けだそりの道が、夜の寒さで硬くなテ、馬がナ

ンボデモノガラネヨスンナヤ馬ができるだけ深雪にはまらない様に「するため」だそう。田んぼの中を踏み固めただけの仮設のそりの道は、少し気温が上がると柔らかくなり、馬は胸まで雪に埋もれて苦労して歩くことになる。小学生の頃から荷を降ろす間に馬が動かないように手綱を持つ手伝いをしていた私には、その光景が容易に想像できた。野山の草花が一斉に芽吹き賑わいを見せる季節や春の農作業に思いを馳せながら、厳しい環境を逆手に取り、うまく活用していた農家の暮らしがその心意気に触れる言葉だったような気がする。



間もなく冬を通り越し、芽吹き季節を迎える。準備を怠りなく、おいしい米作り、おいしい枝豆、そしておいしい柿づくりに向けて老骨を労わりながら、もう少しの間頑張ることにしよう!

山形の

郷土料理紹介

春号

「笹巻き」



笹巻きは山形県の伝統的なお菓子であり、その歴史や文化に根付いた美味しい郷土料理である点が魅力的です。地元で育まれたもち米と笹の葉を使用しており、昔ながらの製法を守りながら丁寧に手作りされています。笹の葉で包まれたもち米は、風味豊かでふんわりとした食感があり、笹特有の爽やかな香りが広がります。行事や祭り、家庭の食卓などで楽しめることが多く、きっと庄内の素朴で温かい愛情が詰まった味わいに感動していただけると思います。

また、笹巻きはお土産としても喜ばれます。訪れた際には地元の魅力を味わいながら、自宅でもその風味を楽しんでいただき、旅の思い出や庄内の文化に触れることができるでしょう。

## ファーム商品ラインナップ

黒豆きなこ



青きなこ



きなこ

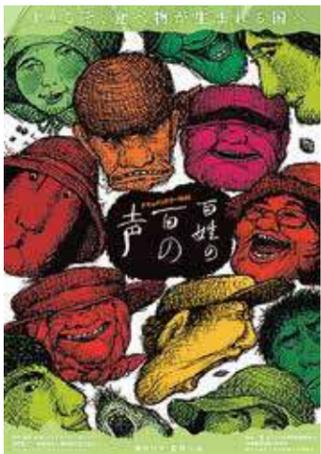


## オススメの食べ方一例

- ① 黒みつ+ お好み 各きなこ
- ② 黒みつだけ
- ③ 砂糖
- ④ きなこ+砂糖



# 『百姓の百の声』上映会開催しました！



体調の心配。そして後継者問題などお互いに辛い課題と向き合う時期に入った。みんな1つの目標へと突き進めた若い頃と違って、それぞれの状況の違いから、お互いの意見をぶつけ合うことも難しくなっていた。この閉塞感をどう乗り越えていくべきか、長い間考え続けてきた。

## 上映のきっかけ

昨年秋に偶然この映画を観て、「ああ、これだ！」と思った。映画に登場する古老の百姓が語る「植物を観察すること」それを「記録すること」そして、その行為そのものを人生を楽しむ「道楽」と思っていること。80〜90代の百姓達が嬉々として農の世界に没頭する様子は、70代を生きる自分達には希望に感じられた。同世代の仲間にもこの感動を伝えられたらと思った。

## 開催に込めた思い

団塊の世代の癖なのかもしれないが、組織化しようとする一つの「正しい」と思われる意見に「純化」させようとしてしまう。そこで求められる協調性とは「違いを認めない」という裏の顔を持つ。純化は対立を生む。対して農は基本的に多様性の世界だ。多様性ということは自分と人は違うということを知ること。自分とは違う人間同士が、どうにかして共有出来る部分を見つけて、そこをどう力に変えていけるのか。多様性のままに、どのような対話をすれば前進できるのか。若い世代に託したい願いだ。

## 開催してみてもいい気がする

映画終了後に、庄内協同ファームの若手3人を前にして対面でのやりとりでトークショーを進める予定でしたが、富樫俊悦くんが、テーブルを取り払ってイスを車座にして座りませんか？と提案してくれてその行動



にハッとさせられた。若い人達は「対話」とはどうあることなのかわかっていたのだ。映画上映に向けて事務局とのやりとりやスクリーンに映し出す操作は、小野寺紀允くんがテキパキと準備をしてくれた。我々世代だけでは到底上映会の開催までこぎつけられなかっただろう。

以前、庄内協同ファーム職員佐藤弘明くんが、休日にカメラを持って組合員農家を訪ね写真に納めてくれた。彼の写真展で、自分達の横顔が映画に出てくる百姓にも負けないくらい生き生きとした笑顔なことに驚いた仲間も多かっただろう。若い人達は俺達世代にずっと対話で向き合ってくれていたんだよね。教え合い、共有する「百姓国」の世界に生きてきたのだ。考え方を少し変えれば、農業は問題よりも可能性に満ちている。そう気付いた映画だった。

## 現状の課題について

庄内協同ファームを設立した世代は70代を迎え、高齢の親の介護や自分、パートナーの

上映実行委員の富樫英治さんより、映画上映会を開催しようと思ったきっかけと開催に込めた思いや気付きなどを伺った。

## 我が家のボカシ肥料作り



さて、最後にボカシを作る理由を書きたいと思えます。2つにまとめました。

①様々な種類の菌を入れて豊かな土壌を作るため。  
連作障害対策でもあり、異常気象対策にもなるのではないかと思います。菌の多様性があれば病害菌だけが繁殖するのは難しいでしょうし、寒い山や温かい河川敷の菌など生育環境が異なる菌がいることで全天候型の菌相になると考えました。

②地域の資源を有効利用するため。  
地域の米ぬかや燐炭などを使えば遠くからガソリンを使って資材を運ばなくていいわけですから環境にも優しいですし、社会状況が変化して資材の価格が上がったり物が入って来なくなっても影響が小さくなると思います。また、できたものを買えば高いですが、自分で作れば安くできます。

自然環境も社会環境も激変する昨今、農家の知恵はますます大事になっていくように思います。



ブナ林の落ち葉からも土着菌を採取



醗酵温度は50℃を超えることも!!

## 次世代リーダー研修



ていきたいと思えます。

今年の1月29日、庄内協同ファームの中期計画指標を協議するために第二回目となる協議会が開催されました。

今回の協議会は次世代を担う若手理事、組合員が参加し、丸一日かけてワークショップ形式で行われました。

副代表の小野寺紀允くんが作った資料を基に庄内協同ファームの現状と課題をみんなで共有し、これから組織がより良くなるための案や手段を話し合うというのが主な目的でした。その中で庄内協同ファームの各商品の売上と販売先などの共有や現在直面している問題と組織運営上考えられる課題に対する解決策をグループに分かれて話し合い、全体で共有しました。

また理念や方針についても変えるべきところがあるか？さらに追加してやりたいことは？など現状と擦り合わせての変化や次世代から、更にその次の世代まで繋いでいけるテーマ、庄内協同ファームでやりたいこと、目標についても意見交換されました。

中期計画とはいえずぐにすべてを解決、改善出来るわけではないということに頭を悩ませながらも案を出し合い、話し合ったことで様々なアイデアに触れ、これからのについての意識やモチベーションを高める機会にもなりました。

## 新職員紹介

事業管理課 草島 一也

私は、前職で金属の材料・加工販売の仕事に就いておりました。農業・食品関係の業界は初めてとなりますので、早く仕事を覚えて貢献できるように取り組んでいきたいと思えます。皆様、ご指導の程、よろしくお願い致します。

